

令和6年度
青少年委員実践集録

対話からの気づきを
おくりあおう

令和7年3月

杉並区青少年委員協議会
杉並区教育委員会

目 次

あいさつ	青少年委員協議会 会長 岡田美津江 学校支援課 課長 中曽根 聡	P.2
青少年委員協議会報告		P.3
ブロック活動報告	第1ブロック	P.4
	第2ブロック	
	第3ブロック	P.5
委嘱式		P.5
専門部活動報告	地域交流部	P.5
	研修部	P.7
	広報部	P.8
青少年委員だより	第82号	P.9
	第83号	P.10
協議会活動	第74回 ひまわりフェスタ	P.11
	第15回 すぎなみ舞祭	
	社会を明るくする運動 駅頭広報活動	P.12
	杉並区中学校対抗駅伝大会2024	
各中学校区での取組	地域教育連絡協議会事業開催一覧	P.13
	地域教育推進協議会事業開催一覧	P.20
活動風景	地域教育連絡協議会(子ども地域活動促進事業)	P.22
	地域教育連絡協議会(懇談事業等)・	
	地域教育推進協議会	P.23
委員の実践	絆を深める地域活動	P.24
青少年委員協議会	令和6年度年間活動状況	P.26
青少年委員協議会規約		P.28
青少年委員協議会組織図		P.29
青少年委員協議会委員名簿		P.30



「対話」から始める

青少年委員協議会 会長 岡田 美津江

今年度は、11名の新しい委員を迎えて40名の委員でスタートしました。青少年委員制度の発足から70年が過ぎ、移りゆく時代の中で子どもたちを取り巻く環境が変わってきています。私たちの活動も変わるときがきたのかもしれませんが、そこで私たちは持続可能な青少年委員活動を目指して、青少年委員の活動を見つめ直すことにしました。

コロナ禍で活動の在り方が変化しました。もとに戻すことが全てではなく、良かったことは続けていけば良いと思っています。ここ数年で気になるのが人と人との関わり方です。タイムパフォーマンスを優先し、対面で話をする機会が以前よりも少なくなってきました。SNSやオンラインでのメリットがあるのも理解しています。私も助かっています。ただ、言葉は顔を見ながら伝えることで、真意がわかるのではないのでしょうか。表情が見えない文字では気持ちを読み取ることが出来ず、誤解を生じることがあります。

私たちは、学校支援課と話し合いを進めていく中で「自分を知り、そして相手を知り、互いに気づきあうことが大切ではないか」という気付きに至りました。そこで、教育ビジョン2022の中で掲げられている「対話」を大切にしていくことにし、活動テーマの中に取り入れました。対話とは向かい合って話すことと辞書には書いてあります。私は、向かい合って話をするにより、表情や態度を含めてその人を知ることができるものだと思います。対話を通して、お互いに気がついたことをおくりあえたらと願いを込めて、テーマを決めました。対話を通して、未来に続く道を見つける2年間になるよう進んでいきたいと思っています。亀の歩みかもしれませんが、これからも青少年委員の活動にご理解とご協力を賜われますと幸いです。

一人ひとりの実践がやがて大河になる

教育委員会事務局 学校支援課長 中曽根 聡

皆さまの日々の実践がつまった『実践集録』の〈あいさつ〉、その重みに身が引き締まる思いです。

そもそもこの『実践集録』のタイトルに込められた願いがあるように感じ、この機会に改めて調べてみようとして区役所二階の情報公開係を訪ねてみました。そこには、過去の『実践集録』が公開保存されているのですが、残念ながら創刊号は見当たりませんでした。しかし、昭和44年からはしっかり保存されており、そのとききの青少年委員の想いがぎっしりと詰まっていました。

私は、これまで何度か皆さまにもお伝えしているのですが、この冊子の中の〈絆を深める地域活動〉コーナーが大好きです。皆さまの実践を集録しているこの冊子のなかでも、特に個人の想いがにじみ出てくるコーナーだからです。

今回、改めて過去の冊子を読み返し、その時々々の青少年委員の想いに触れ、一人感動したのですが、ここでは、昭和47年のあとの紹介させていただきます。

「ふだん考えていることでもそのまま表現するのは難しいことで、ここに載っているのは日頃の委員の方々の意見や活動のほんの何分の一か、氷山の頂きにすぎないかもしれません。…ないないづくしのなかではっきりと存在するのは、青少年の住みよい、学びやすい、働きよい社会へと指向する全委員の意思と希望だと思います。…この連帯感をもとに、この集録にまとめられた今年度の成果、来年度への宿題をよく読みとっていただいて、繰り返しでなく、積み重ねていけるように、充分利用して下さるようお願いいたします。」

私たちも、皆さまと日々やりとりしながら、一人ひとりの委員が意思と希望溢れる活動をできる環境を整えていきたいと考えておりますので、引き続きよろしく願います。

【青少年委員協議会報告】

令和6・7年度活動テーマ 「対話からの 気づき をおくりあおう」

昨年度、私たちは青少年委員制度発足70周年という区切りを迎え、さまざまな記念事業を無事に終えることができました。その安堵感とともに迎えた令和6年度は、退任された青少年委員からバトンを受けた新しい青少年委員が多く、あらたな顔ぶれでの協議会スタートとなりました。「対話からの 気づき をおくりあおう」というテーマは教育ビジョン2022の視点を青少年委員活動に反映させ、実行していきたいとの思いで考えたものです。

青少年委員は、各地区の青少年育成委員会からの推薦を受けて杉並区教育委員会より委嘱されています。原則、各中学校区に2名配置され、現在は40名で活動しています。担当している中学校区において「地域教育連絡協議会(地教連)」の事務局として、懇談事業と子ども地域活動促進事業(子促)に携わり、学校に足繁く赴くことで子どもたちや学校との繋がりを深めています。学校でのいきいきとした子どもたちの姿やこれから一緒に考えたい課題など、臨場感をもって地域の方々にお伝えすることのできるパイプ役でありたいと願っています。天沼中学校区、高円寺地区、杉並和泉学園校区、神明中学校区では「地域教育推進協議会(地教推)」として、さらに大きな枠組みの中で、地域性に富んだ活動をしています。

このように各中学校区で活動することに並行して、青少年委員協議会を組織することにより情報共有だけでなく自己研鑽にもつとめています。協議会は地域ごとに3つのブロックに分かれており、ブロック活動により、近い地域の青少年委員同士がつながりを深めています。ま

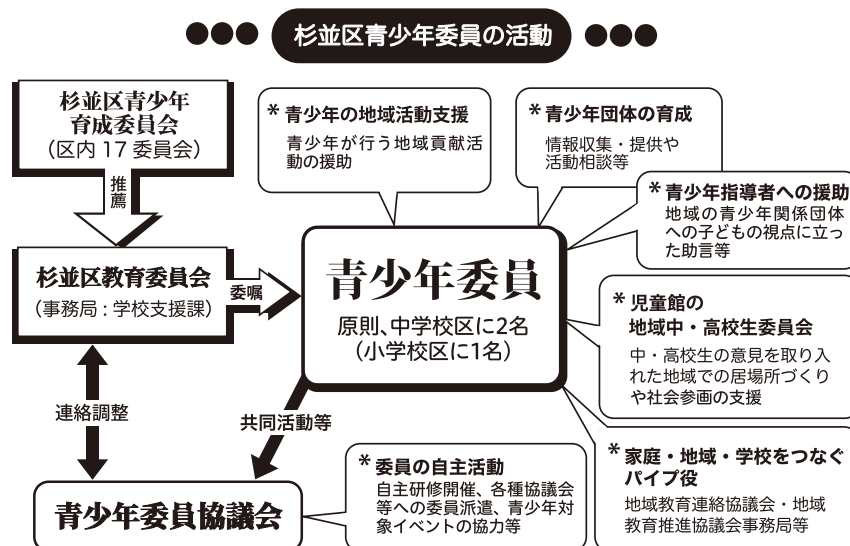
た、専門部として研修部、広報部、地域交流部があり、いずれかの専門部に属することで地域を超えた活動を行っています。

研修部は行政主催の基礎研修、委員研修、実技研修に関わります。協議会主催の自主研修として、今年度は20年ぶりに新貨幣が発行されたことに合わせて、日本銀行本店と貨幣博物館を見学しました。

広報部は、年2回の「青少年委員だより」の発行を通じて、青少年委員協議会の活動周知を図っています。「青少年委員だより第83号」では今年度就任された渋谷教育長に座談会形式でお話を伺いました。年度末には、一年間の青少年委員活動を総括する「青少年委員実践集録」(本誌)を編集します。

地域交流部は、不登校の子どもや家庭を支援する団体を招いて交流会を開催しました。どのような思いで活動を始められたかなど、対面でそれぞれの団体のお話を聞くことは意義深く、対話の大切さを実感するひとときでした。

長い年月をかけて、青少年委員の諸先輩方がさらにより活動へと尽力されてきた流れの中で、現在も青少年委員協議会が抱えている課題もありますが、杉並区教育委員会事務局学校支援課家庭・地域教育担当の職員の方々と信頼関係をもって協働できていることは強みです。青少年委員それぞれが意識的に“気づき”、それらをおくりあうことで、活動をより深化させていくことができるよう令和7年度に繋げていきます。(諸橋 記子)



【ブロック活動報告】

第1ブロック

1ブロックは、皆それぞれの地域を大切に活動をしています。お互い顔を合わせるたびに、情報交換をしたり、互いに励まし合い、学び合う、とても良いブロックだと思います。

そのような中、ブロック研修として2月20日に「ゆう杉並」を見学してきました。

ゆう杉並は杉並区内で、唯一の中高生のための児童館であり、小学生も利用でき利用者の5割が高校生、3割が中学生で、さまざまな子どもの居場所としてスポーツやバンド練習もできる施設でした。また、のんびり過ごせるコーナーや落ち着いて学習ができるコーナーもありました。青少年委員としてとても興味深かったのは「中・高校生運営委員会」を設置し施設の運営にも関わり、職員と対等な立場で意見交換をしていることです。毎年、中・高校生運営委員会主催の「ゆう杉祭」が開催され、中高生自身が企画者となり、バンド、ダンス、演劇、ポータルなどを発表したり、バスケットやカードゲームなど様々な企画が行われているということでした。

子どもたちが自ら考え実行できるよう大人が寄り添うーこれは青少年委員の活動ともリンクします。ご説明くださった館長の子どもたちへの声かけの仕方などはとても勉強になりました。「また、見学しに伺ってもいいですか?」と最後に伺ったら、「いつでもいらしてください!」とお返事をいただきました。ぜひ、また子どもたちの素晴らしい居場所を見学しに行きたいと思います。

(大盛 悦子)



第2ブロック

今年度の2ブロックは、新しい委員を5名迎え、14名でスタートとなりました。全体会などで顔を合わせると、それぞれの想いや悩みを話し合うなど、ブロック内で支え合っています。

今年のブロック研修は、10月10日に、恵比寿にあります『エビスビール記念館』を見学してきました。新しく生まれ変わったビール工場は、思わず大きな声で叫んでみたくなるような広々とした空間でした。エビスビールが元々あり、ここから地名が恵比寿となったことを初めて知った委員もいたので、この場所を選んで良かったと思いました。恵比寿でランチ、散策をして親睦を深めることもできました。このようなゆとりの時間は、私たち青少年委員にとって大切なひとときだと改めて感じました。

6月のブロック別全体会では、初めましての状態でしたが、地域が近いこともあり、皆さんすぐに打ち解け、話も弾み、屈託のない意見がたくさん出ました。11月のブロック別全体会では、テーブルを囲んで貼った付箋を、グループ毎にまとめてくれる人、コメントを加えてくれる人と、誰から頼まれることもなく素早く自ら進んでまとめてくれました。このような2ブロックメンバーにいつも助けられています。

微力ではございますが、メンバーが1人で悩まず、どんな小さなことでも相談し合えるような関係性でいられるよう、協力し合いながら和気あいあいと邁進していきたいと思います。

(奥山 美奈子)



第3ブロック

今年度の3ブロックは、新しい委員5名を迎えて15名でのスタートとなりました。

昨年のブロック研修は、「お互いの事業を知り合うこと」。気づきや参考になることがたくさんあり勉強になったので、今年も研修とは別に引き続き行いました。

そして今年は、11月29日に『東京おもちゃ美術館』に行ってきました。ここは、旧新宿区立四谷第四小学校の校舎を利用した、認定NPO法人芸術と遊び創造協会が運営する美術館で、赤ちゃんにも安心な木育おもちゃから、大人も楽しめる世界のゲームまで、幅広い年代の方が楽しめるミュージアムです。

初めに協会の方からレクチャーを受け、その後、館内を自由に観て廻りました。各フロアに、おもちゃと人、人と人を繋ぐ架け橋のような存在の「おもちゃ学芸員」の方がいて、おもちゃの説明をしてくれます。大人の私たちも、実際に触れて、体験して遊びに熱中することができ、楽しい時間が持つことができました。見学後には皆で感想を伝え合い、「おもちゃ」は年齢を問わず遊ぶ人たちを繋ぐコミュニケーションツールの一つ、また、親も子どもと一緒に遊びを楽しむことが大切なのだと気づかされました。「自らも楽しむ」をモットーにしている3ブロックには、ぴったりの研修場所だったと思います。

この研修で感じて得たことを活かして、これからも、地域・家庭・学校をつなぐパイプ役として、皆で助け合い無理なく楽しみながら活動していきたいです。

(椎野 玲子)



委嘱式

日 時：令和6年4月4日(木)

場 所：杉並区役所西棟6階 第5・6会議室

桜が咲き誇る中、杉並区役所で委嘱式が行われ、今年度就任された渋谷教育長から、新しく委員となった11名に委嘱状が手渡されました。和やかな雰囲気の中にも緊張感のある、厳かな式でした。

青少年委員は教育委員会から委嘱された非常勤公務員であり、青少年教育の振興のため、家庭・地域・学校をつなぐパイプ役となり、地域の教育力向上の要として活動しています。渋谷教育長からのご挨拶ではその役割の重要性についてお話があり、各校の校長先生方にも協力をお願いしてくださるとのお言葉をいただきました。委嘱式を終えて改めて青少年委員としての責任の重さを感じました。そして何年も委員として活躍されている方々の明るく前向きなお姿を拝見し、これからメンバーの一員として一緒に活動できることに喜びを感じました。子どもを取り巻く環境も年々変化していますが、時代に合わせたやり方で杉並の未来を生きる青少年が健全に笑顔で成長していけるよう、尽力して参りたいと思います。

(三浦 聡子)



【専門部活動報告】 地域交流部

今年度の地域交流部は、新たに3名の委員が加わりスタートしました。昨年は70周年の関係から他団体交流はこれまでとは少し趣旨の異なる「区長との懇談」だったので今回は2年ぶりの実施となり、「通常他団体



交流は初めて」という委員が3分の1にも及びました。これまで何回も候補に挙がっては実施に至らなかった「不登校支援団体」を交流先に決め、10月に実施しました。新しい委員も今回の経験を踏まえ、来年度の交流先を今から考えています。派遣活動ではコロナ禍後、昨年度から再開した「ふれあい運動会」の運営協力として10月に実施し、令和7年2月には「ファミリー駅伝」の運営協力を行いました。特に「ふれあい運動会」は実施にあたり青少年委員の協力は必要と感じ、有意義な派遣活動でした。（澁谷 薫）

不登校支援団体との交流会

開催日：令和6年10月17日（木）

場 所：セシオン杉並 第8・9・10集会室

不登校状態になっている子どもが急増している昨今、これまで他団体交流先の候補として何度となく挙げた「不登校支援団体」を今年度の交流先としました。デリケートな問題であり多少迷いはありましたが、学校や子どもたちと関わる機会が多い青少年委員として、まずは対話を通して「知ること、気づくこと」を目指しました。知人が活動している支援団体、学校・支援本部等を通じてお付き合いがある団体、ホームページを見て知った団体、行政関係などに交流会への参加依頼をし、どの団体も前向きに引き受けてくださいました。当日は青少年委員の活動紹介に始まり、杉並区としての不登校対応の説明、各団体の活動紹介を互いに聞き合い、グループトークに移りました。それぞれの団体には関わり方の特色があり、それらを知るだけでも大変有意義で、各グループで話したことを皆



で共有し、会を閉じました。今回の交流会がこれからの活動の一助になればと思っています。（澁谷 薫）

第61回 ふれあい運動会

開催日：令和6年10月12日（日）

場 所：杉並第十小学校 校庭（蚕糸の森公園運動場）

それまでの雨続きが嘘のような晴れ渡った杉十小学校のグラウンドで、障害のある方もない方も楽しめる「ふれあい運動会」が開催されました。今日ばかりは気温も上昇し、競技に参加される皆さんは少し暑かったかもしれません。それでも皆さん、はりきって楽しそうに参加されていました。はじめての体操はポンポンを使った「ポンダンス」。グラウンドに青と黄色のポンポンの花が咲きました。続いて「みんなで玉入れ」。すごい迫力でした！「ふたりでパックパン」は、中学生ボランティアと2人一組で行うパン食い競争！これは見ている方も楽しめました。最後の競技、運動会の花「対抗リレー」は、手に汗握る大接戦が繰り上げられました。応援にも熱を帯びた中、第61回「ふれあい運動会」は終了となりました。暑い中、お疲れ様でした。楽しい一日をありがとうございました。また、来年お会いしましょう！（小林 朱実）

第23回 すぎなみ名物ファミリー駅伝

開催日：令和7年2月23日（日）

場 所：蚕糸の森公園運動場

2月23日、3連休の中日に行われました。従来の規模での実施は5年ぶり。風が冷たく吹き荒れる朝でした。開始時間を迎えると風も落ち着き、暖かい日差しに恵まれマラソン日和になりました。44チームの参加があり、1チーム4名、グラウンドを走る人、蚕糸の森公園を走る人、各チームそれぞれ構成を考え、いざスタート地点へ。笑顔でスタートを切った選手の方も周を重ねるごとに表情が厳しくなり…。たすきを次の奏者へ



渡す時、ゴールの瞬間は先程の厳しい表情とは一転みなさん笑顔でレースを終えていました。小さなお子様からご高齢の方、観客の方の声援、皆で一本のたすきを最後まで繋いでいる姿がとても印象的でした。

初めてファミリー駅伝にスタッフとして参加させて頂きましたが、疑問が出るとすぐにスタッフ同士で話し合い、どうしたら選手の方に伝わりやすいかという事を常に考えていました。参加された全ての方から元気を頂き、とても良い経験が出来た1日でした。

(山崎 友香)

研修部

研修部は、青少年委員の活動において、委員が学ぶべきこと、必要なことは何かを考えながら、教育委員会主催の研修への協力と協議会主催の自主研修を企画しています。

自主研修では、今ならではの学びの機会を持つこと、なかなか交流の機会がとれない委員間の情報交換および親睦を深められるような内容を目指しました。

これからも楽しく笑顔で活動できるヒントとなるような研修を企画したいと思います。(杉本 昌代)

<基礎研修>

日 時：令和6年5月16日(木)

場 所：セシオン杉並2階 講座室

テーマ：青少年委員及び地教連・地教推について

講 師：学校支援課長 中曽根 聡 氏

基礎研修では、青少年委員の職務や特徴、制度発足からの歴史と「杉並区教育ビジョン2022」を通じて、青少年委員の役割とそれぞれが取り組んでいる活動の情報交換などグループディスカッションを含めて学びました。制度が発足して約70年間の歴史は、当初「青少年犯罪・不良行為の増加など」の時代背景からはじまり、これまで、地域ボランティアや青少年委員など数多くの方々が携わり、今日まで作り上げてきた努力と歴史を感じました。

本年より、青少年委員として委嘱を受け、これから沢山の方々と出会い活動を広げていくことになりますが、杉並区の地域住民の一人として、子どもたちの大事な青少年期に携われること、また、活動を通してさまざまな人と出会えることは、楽しみでワクワクしています。

私一人の力では微力かもしれませんが、青少年委員の仲間と一緒に笑顔で活動できるよう、出会う人たちを笑顔にできるよう努めたいと思います。(横田 智子)

<実技研修>

日 時：令和6年7月18日(木)

場 所：杉並区役所 第4会議室

講 師：合同会社Active Learners 山ノ内 凜太郎 氏

テーマ：企画するのが楽しくなる！懇談会のつくり方



初めに中曽根課長より「この研修で新しい形の懇談会を作るきっかけにしてほしい」と挨拶があり、グループに分かれ懇談会形式で研修会が始まりました。学校支援課より“教育委員会が考える地教連・地教推の懇談会について”の話を聞き、講師より懇談会でのルール「違いを楽しみ受入れ否定しない。沈黙も愛そう。聴く・訊くは、効く。」や、自分たちが楽しいと思える懇談会を作る方法「分かりやすいゴールと丁寧な事前準備が成功のカギ」などをご指導いただき、それらを踏まえて懇談が行われました。今回の研修の中で、地域の特色にあった懇談会を作る必要もあるが、何より自分たちが納得感や、やりがいがある懇談会を作ることも大切なだと気づかされました。ですが、丁寧な事前準備をする時間が無いなどの課題も見えました。そういった課題にどう向き合っていくのか、各地域の課題などを話し合えたことは、各青少年委員にとって大変有意義な時間になったと思います。(芦 秋子)



<委員研修>

日 時：令和6年9月19日(木)

会 場：杉並区役所 第4会議室

講 師：明星大学 理工学部総合理工学科 特任教授
地域学校協働活動推進員 由井 良昌 氏

テーマ：中学生の居場所と出番

—子どもの力を引き出すには—

由井先生は、“新しいことへ挑戦するのが好き！”とのご自身の信念に沿って杉並区の校長の職を辞され、明星大学で教壇に立たれております。

講話の中では、体験活動の重要性について語られました。体験活動に多く携わった親は、子にも体験活動を経験させながら育てる。そのように育った子は、“心が豊か”であり“自己肯定感が高く”“道德心が高い”傾向が見られることに触れられました。現在の小中学生は、大切な心身の成長の時期にコロナパンデミックに見舞われ、人との関わりだけでなく、多くの体験活動の場も奪われてしまいました。今こそ、私たち青少年委員がその機会を作る一員として働きかけなければならないとの使命感を持ちました。

また、主体的な学びの授業例が紹介されました。子ども自身が興味のあることを課題にし、互いに教え合い学ぶ姿勢は、ひとりひとりが輝いていました。“自ら学んだことは身につく”この学びが広がることに期待します。(佐藤 幸子)

<自主研修>

日 時：令和7年1月16日(木)

場 所：日本銀行本店・貨幣博物館

今年度の自主研修は、令和6年7月の新札発行にちなみ、日本橋の日本銀行本店と貨幣博物館へ見学に行きました。日本銀行本店は、入る時に身分証明書が必要で手荷物検査もあり、日本の金融システムの中核として万全なセキュリティ対策という印象を受けました。国指定重要文化財である明治29年竣工の本館は、自然光を取り入れるガラス天井やさまざまな様式の装

飾が大変美しい建物です。平成31年に安全性を高める免震化工事が行われ、地下の免震装置が見えるコーナーもあり



ました。地下の金庫は、関東大震災での被災を免れ創建当時の姿を残す貴重な空間ですが、撮影用の小物やフотスポット、1億円の重さが体感できるダミーなどが設置され、見学者が楽しめる場となっていました。はす向かいの貨幣博物館も、古銭や藩札の展示はもちろん、音声ガイドや子どもが興味をもちそうな体験展示など、内容が充実していました。お金と社会の関わりについて考えるよい契機となりました。

(毒島 さつき)

広報部

青少年委員の活動を多くの方々にご理解いただくため、年に2回「青少年委員だより」を発行、さらに1年間のしめくくりとして「実践集録」を発行しています。青少年委員の活動を分かりやすく紹介するとともに、特集やテーマを設け、現状や課題点を共有できるような紙面作りを心がけています。

7月に発行しました「青少年委員だより第82号」では、それぞれの地域を担当する青少年委員が分かるよう、ブロック毎に分かれた地図と、顔写真とともに名前と担当校を紹介しました。日常を取り戻してきたからこそ、学校・家庭・地域のパイプ役としての青少年委員を、皆様にご理解いただきたいと思います。

また、3月に発行しました「青少年委員だより第83号」では、地域と学校・教育行政との協働について、渋谷教育長と学校支援課の中曽根課長、協議会の岡田会長に座談会形式でお話を伺い、紙面を作成しました。今後の地域活動におけるヒントになるようなお話が伺えたと思っております。

発行にあたりまして、ご協力いただきました皆様方に感謝を申し上げます。(小森 梨沙)

【協議会活動】

第74回 ひまわりフェスタ

開催日：令和6年7月15日（月・祝）

場 所：セシオン杉並 ホール・中庭・展示場

“社会を明るくする運動”推進イベント「ひまわりフェスタ」が5年ぶりに開催されました。夏の日差しが眩しい中、大勢の方が来場されていました。中庭では、警視庁によるパトカー、白バイの乗車体験。展示室ではパネル展示、クイズ、手づくりコーナー等があり、子どもから大人まで楽しまれていました。青少年委員は、缶バッジづくりコーナーを担当し、慣れないながらも試行錯誤しながら最後にはプロ並に作れるようになった方もいました。ホールでは、村木厚子氏による講演「少女・若い女性たちの生きづらさを知ろう」と警視庁音楽隊・カラーガードによるコンサートが開催されました。

久しぶりの開催でしたが来場者も多く、楽しみながら大人から子どもへと伝えていける場となっていけたらと思います。更生保護について理解する人が増えて、優しさにあふれて、生きづらいと思う人が少しでも減ってくれることを願います。（岡田 美津江）



第15回 すぎなみ舞祭

開催日：令和6年10月20日（日）

場 所：下高井戸おおぞら公園

10月20日、下高井戸おおぞら公園にて「すぎなみ舞祭」が開催されました。すぎなみ舞祭は、子どもたちの自主性や社会性の育成、地域を元気にすることを目的とした杉並区のダンスイベントです。ダンスの発表に加えて、キッズコーナーやキッチンカー・屋台も数多く出店し、まさにちびっこから大人まで楽しめる賑わいのあるお祭りとなりました。私たち青少年委員は、参加者の受付・案内・表彰状の印刷やグッズ販売など、様々な運営のお手伝いをしました。

今年は36チーム、約550名ものダンサーたちが集結しましたが、子どもたちが緊張した面持ちで自分の出番を待つ姿は、この日のために必死に練習してきた彼らのこれまでを想像させるようなものでした。笑顔で出番を迎え、舞台へ出ていく子どもや、出番を終え、清々しい顔で友だちと会話している子どもなど、彼らの多彩な表情が、会場をより一層明るくしていたことは言うまでもありません。すべての来場者に楽しんでもいただけるような、素敵な一日となりました。

（瀧口 志保）



社会を明るくする運動 駅頭広報活動

開催日：令和6年10月3日(木)、10月11日(金)

場 所：JR荻窪駅、JR西荻窪駅、
JR阿佐谷駅、丸ノ内線東高円寺駅

社会を明るくする運動とは、すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪のない明るい地域社会を築こうとする法務省が主唱する全国的な取り組みです。青少年員も区内の駅頭で中学生の有志と一緒に参加しました。

「ご協力お願いします」とパンフレットを配り、受け取ってくれる人、断る人さまざまでしたが、めげることなく協力し合いながら一生懸命に声を出し、笑顔で楽しそうに取り組む中学生の姿にとっても頼もしく、誇らしくも感じました。私自身、青少年委員として参加させていただき、活動の趣旨をより多くの人に広げることばもちろんのこと、このような活動に参加したいと思えるような青少年が増えれば増えるほど、地域社会が明るくなり、安心・安全な社会が実現できるのだと感じました。活動に参加したい！と思えるような青少年が増えるよう、これからも青少年育成に取り組みたいと思います。

(横田 智子)



杉並区中学校対抗駅伝大会2024

開催日：令和6年12月8日(日)

場 所：都立和田堀公園第一競技場
(和田堀グラウンド)

今冬初めて5度を下回る冬晴れの下「杉並区中学校対抗駅伝大会2024」が開催されました。区内24校と南相馬市からの招待チームが参加しました。

早朝から続々と選手が集まり、冷たい空気の中でウォーミングアップをしている様子を目の当たりにし、段々と緊張感が高まってきました。青少年委員は開閉会式に参加する選手の誘導と会場の片づけを行いました。レース中は間近で観戦することができ、楽しいお手伝いとなりました。

今年は済美山運動場の改修工事に伴い例年に比べコンパクトな会場でしたが、その分応援席からの声援がより近く感じられ、選手たちの後押しになったことと思います。泉南中演劇部の実況アナウンスもレースを大いに盛り上げてくれました。結果は、男女ともに宮前中が優勝し、応援に駆け付けた関係者たちは大喜びの様子でした。

コロナ禍で規制されていた表彰式は今年からオープンになり、華やかな雰囲気になったこともとてもうれしかったです。来年に向け、良いたすきを繋げることができた大会となりました。

(丸山 麻由)



各中学校区での取組

杉並区青少年委員は、原則として各中学校区に2名が杉並区教育委員会から委嘱され、概ね中学校区ごとに組織されている「地域教育連絡協議会(地教連)」または「地域教育推進協議会(地教推)」の運営に携わっています。

●地域教育連絡協議会(地教連)

*各中学校区ごとに組織され、小学校・中学校の先生、PTA、その地域の方々と構成されています。

◇懇談事業

*年間テーマを決め、年に数回、懇談会や講演会を開催し地域の情報交換の場になっています。

◇子ども地域活動促進事業(子促)

*各中学校区ごとに、お祭りやコンサート、ゲーム等さまざまな催しが実施されています。

*子ども実行委員会が中心となって企画し、各小学校・中学校の子どもたち、PTA、地域の皆さんの協力と参加があります。

●地域教育推進協議会(地教推)

*地教連の発展的な取組です。0歳から15歳までの子どもの育成や教育をコミュニティの問題として考え、子どもたちが健やかに育つ地域の実現に向けて活動しています。

① 中学校区名 地教連・地教推(担当青少年委員)

令和6年度 懇談事業開催一覧	令和6年度 子ども地域活動促進事業開催一覧
② 会長名 ③ 年間テーマ ④ 開催日時 ⑤ 会場 ⑥ 参加人数 ⑦ 内容	② 実行委員長名 ③ 事業名 ④ 開催日時 ⑤ 会場 ⑥ 参加人数 ⑦ 内容(ねらい、特色など)

※地教推の事業は、懇談、子促の区別はありません。

① 高南中学校区地教連(松本 絵美・山崎 友香)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 大橋 哲(高南中学校学校運営協議会委員) ③ 話してみよう 「子ども真ん中、地域教育ってこうなんです！」 ④ R6.6.25(火) 16:00~17:30 ⑤ 高南中学校 視聴覚室 ⑥ 30名 ⑦ 趣旨・前年度活動報告・決算報告・年間テーマ、メンバー紹介、子促内容、学区内の危険箇所について	② 大橋 哲(高南中学校学校運営協議会委員) ③ 高南祭 ④ R6.9.14(土) 14:00~16:00 ⑤ 高南中学校 ⑥ 470名 ⑦ 実行委員は小・中学校とも応募にて。中学生19名・小学生14名の計33名の実行委員が企画、準備、当日の運営を行いました。内容は、吹奏楽部の演奏・ステージショー・りゅうせいとしやべろう&ボーリング・競人レース・輪なげ・お休み処&ボードゲーム・寄せ書きコーナー・制服リサイクル・射的・スリッパ入れ・新制服展示。PTAや地域の方々に支えて頂き、とても楽しい高南祭になりました。当日はたくさんの方にお越し頂き、実行委員の子どもたちは皆、達成感を感じているようでした。
④ R6.12.12(木) 16:00~17:30 ⑤ 高南中学校 視聴覚室 ⑥ 30名 ⑦ 高南祭活動報告・感想・反省点など情報交換	

① 阿佐ヶ谷中学校区地教連 (椎野 玲子・諸橋 記子)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 齋藤 健一 (阿佐ヶ谷中学校校長) ③ 子どもをとりまく環境と「学校・家庭・地域」連携について ④ R6.6.28(金) 9:00～10:30 ⑤ 阿佐ヶ谷中学校 視聴覚室 ⑥ 34名 ⑦ 今年度、杉並第六小学校に着任された豎山校長先生のご挨拶、令和5年度の活動報告の後、「令和の子どもたちの日常生活って？」をテーマにグループ毎に話し合いました。	② 齋藤 健一 (阿佐ヶ谷中学校校長) ③ ようこそ先輩 ④ R6.12.7(土) 8:40～9:25(1時間目) R7.2.28(金) 13:05～13:50(5時間目) ⑤ 杉並第六小学校・杉並第七小学校 ⑥ 200名 ⑦ 地域活動ボランティアを募集し、二つの事業に取り組みました。一つ目は「ようこそ先輩」です。25名の阿佐ヶ谷中ボランティアが杉六小、杉七小6年生の土曜授業に出向き、タブレットで準備した映像を交えて、中学校生活についてリアルに伝えました。
④ R6.9.26(木) 9:00～10:30 ⑤ 阿佐ヶ谷中学校 視聴覚室 ⑥ 30名 ⑦ 済美教育センター統括指導主事の加藤則之先生をお迎えし、「今どきの生徒指導って!」について講演していただきました。生徒指導が時代背景と共に変遷していることを知り、現在はどうのように生徒指導がなされているかの理解が深まりました。講演後の質疑では、各校の校長先生の試行錯誤や児童生徒へのあたたかな想いを伺うことができました。	③ 春の子どもまつり ④ R7.3.8(土) 13:30～16:00 ⑤ 阿佐ヶ谷中学校 アリーナ/家庭科室 ⑦ 春の子どもまつり開催にあたっては、杉六小、杉七小の5・6年生からもボランティアを募り、どんなイベントにしたいか、阿佐ヶ谷中ボランティアが中心となって話し合いをすすめながら準備しました。

① 東田中学校区地教連 (鈴木 春乃・神戸 朱里)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 鳥居 利至 (東田中学校校長) ③ 「心を育てる」 ～家庭・学校・地域の役割とその連携を深める ④ R6.6.24(月) 14:00～16:00 ⑤ 東田中学校 第二会議室 ⑥ 15名 ⑦ 自己紹介をし、それぞれの活動の様子を共有しました。また、初参加の保護者から地域の形について議題が出てみんなで話し合いました。	② 大嶋 明香里 (東田中学校PTA会長) ③ 「ANYTHING OK!2024」～育成委員会とコラボ! 「防災ウォークラリーでブース企画」 ④ R6.11.4(月・祝) 10:00～12:00 ⑤ 善福寺川緑地 センター広場 ⑥ 13名 ⑦ 今年は、地域の成田青少年育成委員会とコラボをし、ブースの企画運営をしました。中学生レスキュー隊の子どもたちが率先して実行委員になり、スタッフ募集の宣伝から頑張ってくれました。学年の違う子どもたちが同じ目標に向かって準備を進め、準備会の回数が増すごとに関係が深まる様子を見ることができ感動しました。当日も小学生を相手に臨機応変に対応する子どもたちの姿が頼もしく感じました。
③ ゲートキーパー講座 ～子どものSOSの気づき、受け止める～ ④ R7.3.5(水) 10:00～12:00 ⑤ 東田中学校 第二会議室 ⑥ 16名 ⑦ 自殺防止支援団体「風のとびら」代表 飯田佳子先生をお迎えし、1学期に中学生対象に行った自殺予防「いのちについて～SOSの出し方～」の講演会を経て、今度はサポートする大人向けに講演会をしていただきました。	

① 松溪中学校区地教連 (目黒 由美・村木 由紀)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 武井 広子 (松溪中学校PTA会長) ③ つなげよう ひろげよう 子どもにとってあたたかい地域 ④ R6.6.25(火) 14:00～15:30 ⑤ 松溪中学校 ランチルーム ⑥ 30名 ⑦ 10月開催「あそび市」についての説明を行いました。コロナ以前と同様に活気ある「あそび市」を目指したいことをお伝えしました。また、各団体に自己紹介・活動報告をしていただきました。	② 武井 広子 (松溪中学校PTA会長) ③ あそび市 ④ R6.10.12(土) 13:15～15:55 ⑤ 松溪中学校 ⑥ 1,465名 ⑦ あそび市は子育てネットワーク事業と、中学生主体の子促事業が連携して行われる地域のお祭りとして、乳幼児から大人までの参加があります。中学生ボランティアの自主性を引き出す取り組みとして、生徒会を中心に活動を進め、地域の様々な団体のご協力をいただきながら運営しています。今年度は、コロナ以前と同様の規模での開催を目指して飲食ブースを再開、また中学生ボランティアの自主性を中心に活動できるように企画しました。久しぶりに地域の方々をおもてなしする松溪中学生の笑顔が見られ、感慨もひとしおでした。来年度も各団体と連携して、より良いあそび市にしていきたいと思います。
④ R7.2.25(木) 14:00～15:30 ⑤ 松溪中学校 ランチルーム ⑥ 26名 ⑦ 西田小学校PTA会長の富田真衣子氏を迎え、様々な地域活動を通じて、「保護者としての私」「地域の私」それぞれの「私」ができることを語っていただきました。また、今年度の事業報告及び、各団体の活動報告、情報交換を行いました。	

① 東原中学校区地教連 (河野 知恵子)	
懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 岩本 眞由美 (東原中学校校長) ③ 子どもたちの育ちを支える地域コミュニティづくり ④ R6.6.25(火) 14:00～15:30 ⑤ 東原中学校 特別活動室 ⑥ 24名 ⑦ 自己紹介や活動報告を交えつつ各学校や地域団体、町会との情報交換。今年度の子促事業は地域のイベントにボランティア参加するチャレンジをしていくこととしました。	② 岩本 眞由美 (東原中学校校長) ③ チーム東原 ④ R6.11.9(土) 13:00～16:00 ⑤ 杉九小学校 学童クラブ室「すぎくラブ秋祭り」バルーンアート ⑥ 18名 ④ R6.12.1(日) 10:30～14:30 ⑤ コミュニティふらっと東原「クリスマスマーケット」ランタン作りワークショップ ⑥ 8名
④ R7.2.21(金) 10:00～11:30 ⑤ 東原中学校 特別活動室 ⑥ 25名 ⑦ 「外国にルーツのある地域の子どもたち」をテーマに日本語学習サポートをされている「みなとGlocal」の岩瀬弘嗣氏にお話を伺いました。子どもたちの現状を聞き、地域としての困り事は何か？簡単に始められる事はあるか？とそれぞれの立場で意見を出し合い、気づきが多い時間になりました。	④ R7.1.20～R7.2.3 16:00～16:45 練習会、R7.2.5(水) 14:30～16:00 大会 ⑤ 杉九小学校 学童クラブ室「百人一首大会冬の陣」サポーター ⑥ 28名 ⑦ 「チーム東原」と称して企画ごとに中学生ボランティアの参加呼びかけを行い、遊びに来た小学生や親子の参加者を相手にイベントを盛り上げました。今後は子どもたちの自主性を大切にした実行委員会の形に育てて行きたいと思えます。

① 中瀬中学校区地教連 (白瀬 理恵)	
懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 辻 成一郎 (中瀬中学校校長) ③ 学校・家庭・地域の連携「育てよう ころ豊かな子どもたち」 ④ R6.6.7(金) 10:30～12:00 ⑤ 中瀬中学校 会議室 ⑥ 39名 ⑦ 委員自己紹介後に中瀬中学校区(中瀬中・桃五小・八成小・沓掛小)の校長先生方より学校の様子について伺いました。懇談会では「この地域にいて欲しい子どもの姿とは」というテーマでグループ懇談を行い、委員の皆様から様々な意見が挙がり、時間を過ぎてしまうほど盛り上がりました。	② 辻 成一郎 (中瀬中学校校長) ③ 中瀬フェスタ2024 ④ R6.10.12(土) 14:00～16:00 ⑤ 中瀬中学校 校庭、仮設体育館、仮設校舎 ⑥ 553名 ⑦ 校舎改築工事中という限られたスペースでの開催でしたが、実行委員の生徒たちは知恵を出し合い、先生方にアドバイスをいただきながら、地域の子どもたちが楽しめる催しを考えました。昨年、一昨年と引き続き実行委員に立候補してくれる生徒が多く、とても心強かったです。当日はとても暑く、かき氷のお店は大繁盛で、焼きそばは汗をかきながら頑張って焼いていました。仮設体育館では、歌やパフォーマンスにたくさんの拍手をいただきました。今年も地域の方々や小中学校のPTAさんにサポートしていただきながら無事に終了し、実行委員の生徒たちも楽しかったと大満足の様子でした。
④ R7.2.14(金) 9:25～12:00 ⑤ 沓掛小学校 開放会議室 ⑥ 29名 ⑦ 沓掛小学校の授業参観後に同校で15年程続いている「ふれあいフライデー」を見学しました。地域の方々にお琴、押し花のしおり作り、将棋やオセロなどを教えていただきながら一緒に楽しむ姿はとても微笑ましいものでした。懇談会では「みんなが幸せになる中瀬中学校区」というテーマでグループ懇談を行い、いろいろなお意見をいただきました。	

① 井荻中学校区地教連 (大盛 悦子・芦 秋子)	
懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 長谷川 学 (井荻中学校校長) ③ 「生きる力をはぐくむ地域」～輪から環へ～「地域で考えるこれからのつながり」 ④ R6.7.5(金) 10:00～12:00 ⑤ 井荻中学校 多目的会議室 ⑥ 42名 ⑦ 井荻中学校を授業参観後、井荻中・桃一小・四宮小の校長先生にそれぞれの学校の様子などのお話を伺い、委員自己紹介と情報交換を行いました。	② 長谷川 学 (井荻中学校校長) ③ 井荻中部活動体験&見学ツアー&昔あそび ④ R6.7.13(土) 14:00～15:30 ⑤ 井荻中学校 ⑥ 383名 ⑦ 小学1年生～3年生は昔あそび、小学4年生～6年生は部活動体験&見学ツアーを行いました。子ども実行委員会が中心となり、PTAと地域の方にサポートしていただき開催いたしました。昔あそびではやり方を教えたり、一から手作りで道具と一緒に遊んだり子ども実行委員が頑張っていました。部活動体験では部活動代表者が中心となり、小学生に丁寧に指導していました。見学ツアーでは、子ども実行委員がツアーコンダクターとなって各部活を案内し、紹介・説明している姿がとても頼もしかったです。
④ R6.11.21(木) 10:00～12:00 ⑤ 桃井第一小学校 家庭科室 ⑥ 38名 ⑦ 桃井第一小学校を授業参観後、井荻中・桃一小・四宮小の校長先生にそれぞれの学校の様子などのお話を伺い、グループに分かれ懇談し、懇談内容の発表と情報交換を行いました。	

① 井草中学校区地教連 (新 理恵子・小林 朱実)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 小美濃 英幸 (善福寺町会会長) ③ 地域の連携を深め、子どもたちの「地域を大切に思う心」を育む ④ R6.6.27(木) 16:00～18:00 ⑤ 井草中学校 多目的室 ⑥ 18名 ⑦ 最初に校長先生、会長の挨拶。その後、前年度の子促事業で作成していた井草中の学校と部活動の案内ビデオをPTA、地域、先生に観ていただきました。上映後は、感想もいただきました。	② 小美濃 英幸 (善福寺町会会長) ③ 「エンジョイ! 中学校部活動体験会」 ④ R6.11.16(土) 13:10～16:40 ⑤ 井草中学校 ⑥ 100名 ⑦ 委員を募って、6月26日に第1回子ども地域活動促進事業実行委員会を開催しました。5名の子どもたちが名乗りを上げてくれました。ここから計5回の実行委員会を経て11月16日の本番に挑みました。子どもたちのアイデアは尽きることがなく、小学生を招き楽しんでもらうにはどうしたら良いかを楽しく話し合っていたのが印象的でした。会長や先生方もよく顔を出して、子どもたちの意見に耳を傾けていました。本番当日はスムーズに進行することができ、大盛況のうち閉会式を迎えることができました。

① 荻窪中学校区地教連 (会田 洋子・山崎 愛)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 田中 奈那子 (荻窪中学校運営協議会会長) ③ みんなのしあわせを考える学校・家庭・地域の連携 ④ R6.7.16(火) 15:30～17:00 ⑤ 井荻小学校 特活室 ⑥ 31名 ⑦ 今年度の名簿・組織とテーマの承認のあと、「地域の連携、何ができる? 何がしたい? 初めの一步」ということでもまず顔見知りになることから始めました。グループごとに自己紹介をして、グループメンバーを替えていき、みんなと顔を合わせる交流しました。	② 白川 浩 (荻窪中学校校長) ③ 荻中フェスタ ④ R6.12.7(土) ⑤ 荻窪中学校 体育館 校舎 ⑥ インフルエンザによる学年閉鎖のため中止 ⑦ テーマDreamFestivalということで部活動ごとの舞台発表やゲーム、お祭のお化け屋敷・ウォーリーを探せ・射的・ボウリングなど小学生を楽しませる内容で準備していました。学校の発案で12/20に中学生同士で楽しむ荻中フェスを催すことができました。
④ R6.11.1(金) 15:30～17:00 ⑤ 桃井第三小学校 体育館 ⑥ 34名 ⑦ 子どもたちのために地域・学校・家庭ができること～私たちのその思い～というテーマでグループ懇談をしました。夏のイベントの報告とその中で地域との繋がりがりや連携がどのように活かされているかを意見交換しました。	

① 宮前中学校区地教連 (長澤 淳子)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 小寺 正芳 (宮前中学校同窓会会長) ③ 「広げよう地域の輪・つなげよう地域の心」 ④ R6.6.26(水) 10:00～12:00 ⑤ 宮前中学校 視聴覚室 ⑥ 34名 ⑦ 『宮前スマイル広場2023』の会計報告および今年度の実施内容について各小中学校、地域団体からの情報交換。	② 小寺 正芳 (宮前中学校同窓会会長) ③ 『宮前スマイル広場2024』 ④ R6.12.7(土) 13:00～16:00 ⑤ 宮前中学校 ⑥ 666名 ⑦ 第一部は舞台発表で、宮前中学校のダンス部、吹奏楽部、E組による演劇、荻窪小学校のキッズソーラン、管楽器クラブが発表した。第二部は、中庭等でヨーヨー釣りやストラックアウト、起震車体験などを実施し、多くの来場者が楽しめるイベントとなりました。
④ R7.3.6(木) 10:00～12:00 ⑤ 宮前中学校 視聴覚室 ⑥ 24名 ⑦ 『宮前スマイル広場2024』について報告と反省会講演会「グリーンケアは心の防災」(一社) みんなのグリーンケア代表理事 森田藍子氏による講演。	

① 富士見丘中学校区地教連 (岡田 美津江・毒島 さつき)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 横田 和長 (富士見丘中学校校長) ③ 「つくろう ふれあおう 子どもが輝くあたたかい地域」 ④ R6.5.30(木) 10:00～12:00 ⑤ 富士見丘中学校 特活室 ⑥ 34名 ⑦ 高井戸警察署少年係、荻窪消防署、杉並消防署より、最近の情報などのお話と、各小中学校・地域団体より近況や今後の行事予定についての情報交換。	② 横田 和長 (富士見丘中学校校長) ③ 浴風会での花だん作りと高齢者との交流 ④ 年間を通した活動 ⑤ 社会福祉法人 浴風会 ⑥ 275名 ⑦ 高齢者や地域の方々とのふれあいを目的に始まった花だん作りも26年目になりました。6月にマリーゴールドと日々草とペゴニア、11月にパンジーを植えました。中学生が授業中に土おこしを行い、花植え当日は、小学生に花の植え方を説明しながら一緒に植えました。花植え後は、7・8月と2・3月に草取りも行っています。
④ R6.12.5(木) 10:00～12:00 ⑤ 富士見丘中学校 特活室 ⑥ 39名 ⑦ 懇談会終了後、「思春期のトリセツ～子どもに寄り添えますか?～」をテーマに、心理カウンセラーの飯田佳子氏に講演をしていただきました。	③ ふじぶん ④ R6.11.30(土) 13:00～16:00 ⑤ 富士見丘中学校 体育館 ⑥ 488名 ⑦ 今年度新しい試みとして、地域から出演者を募って文化祭を開催しました。中学生有志による実行委員会が半年かけて準備し、当日の運営を担いました。中学生・近隣小学生有志、卒業生、PTAコーラス等、色々な出演者が参加し、合唱、演奏、ダンス等、内容も多岐にわたり、多くの来場者楽しんでいただけたと思います。

① 高井戸中学校区地教連 (奥山 美奈子・安部 音羽)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 高津 憲 (高井戸中学校校長) ③ 子どもたちの健やかな成長のため、地域の連携を図る ④ R6.6.27(木) 10:00～12:00 ⑤ 高井戸中学校 被服室 ⑥ 35名 ⑦ 今年度の予定など各学校、警察署、消防署からお話をいただき、後半は少人数のグループに分かれて、付箋を使いゲーム感覚で自己紹介と情報交換を行いました。	② 武井 宗義 (高井戸中学校学校運営協議会会長) ③ 高中ミニコンサート ④ R6.12.14(土) 10:00～12:00 ⑤ 高井戸中学校 体育館 ⑥ 580名 ⑦ 高井戸中学校生徒の有志で子ども実行委員会を立ち上げ、企画、宣伝、装飾、司会進行など、学校生活ではなかなか出来ない事を中学生中心に進めました。近隣の高井戸小・浜田山小・高井戸東小の有志は素晴らしい演奏・合唱・ダンスで参加してくれました。高井戸中からは、吹奏楽部・和太鼓部・有志ダンスが参加しました。前日準備、当日の片付けなどでは、小中学校のPTAや中学校のバスケット部・バレー部・バドミントン部など多くの方々に協力していただき交流が深まりました。
④ R7.2.26(水) 10:00～12:00 ⑤ 高井戸中学校 体育館 ⑥ 30名 ⑦ 警察署・消防署・地域の小中学校長他・皆様からの情報交換の後、オリンピックイヤーにちなんでポッチャを体験しながら交流を深めました。	

① 向陽中学校区地教連 (河井 貴子・瀧口 志保)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 齋藤 耕一郎 (向陽中学校校長) ③ 「学校・地域・家庭の連携」 ～子どもたちの健やかな成長を願って～ ④ R6.6.12(水) 13:35～16:00 ⑤ 向陽中学校 各教室 被服室 ⑥ 30名 ⑦ 小中一貫事業の向陽中学校公開授業を見学後、高井戸第三小学校校長の清水先生より3校の小中一貫教育の取り組みについてお話いただきました。その後グループ懇談会として、授業見学の感想や情報交換を行いました。	② 齋藤 耕一郎 (向陽中学校校長) ③ 向陽子どもまつり ④ R7.3.8(土) 10:00～12:00 ⑤ 向陽中学校 体育館 ⑦ 地域の幼保小中学性の交流を図ることを目的とした「向陽子どもまつり」を開催しました。向陽中学校生徒の有志によるボランティアが生徒会と共に子ども実行委員を立ち上げ、企画・運営に携わりました。当日は中学生ボランティアによる綿菓子その他、中央ろう学校の生徒さん、PTAの方々、子ども・子育てプラザ、民生委員の皆様にもゲームやバレーンアートで会場を盛り上げていただきました。ステージでは吹奏楽部の演奏で始まり、KSCCキッズダンスのパフォーマンスへと続き、ラストは舞祭でグランプリを取った向陽中学校ダンス部のパフォーマンスで花を添えていただきました。
④ R6.9.21(土) 10:00～12:00 ⑤ 永福小学校 図書館・体育館 ⑥ 60名 ⑦ スマイリーキクチ氏による、永福小学校セーフティ教室「知らぬ間に巻き込まれていくSNSトラブル」の講話後に、講師、保護者、地域の皆様と懇談を行いました。	

① 松ノ木中学校区地教連 (小林 麻里・澁谷 薫)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 小川 宗次郎 (松ノ木町会会長) ③ まつのき地域の子どもの生きる力を育むために一つのチームになりましょう! 「チームまつのき!!」 ④ R6.6.18(火) 15:30~17:00 ⑤ 松ノ木中学校 体育館 ⑥ 30名 ⑦ 各校長より今年度取り組みたい事についてお話いただき、それをうけてグループトーク。自己紹介には最近おもしろかったこと、おいしかったものなどを添えて和やかに進みました。	② 小川 宗次郎 (松ノ木町会会長) ③ A.松ノ木地域納涼大会 B.堀小こどもフェスティバル C.ふれあいコンサート ④ A.7.20(土) 16:30~18:30 B.10.5(土) 13:00~16:30 C.12.14(土) 13:30~15:30 ⑤ A.堀之内小学校 校庭 B.堀之内小学校 体育館 C.松ノ木中学校 体育館 ⑥ A.300名 B.200名 C.370名 ⑦ 昨年度の懇談会で中学生の活躍の場を広げてみては?」と地域の方の意見をヒントに、従来の「ふれあいコンサート」だけでなく、初めて地域のお祭り等に出店しました。青少年委員も初めてで手探りな事業だったため、子どもたちは最初イメージ湧くことが難しい様子も見られましたが、実行委員会の回を増すごとにどんどんアイデアが湧いてきて積極的に取り組みました。中学生の柔軟かつ楽しい発想にはこちらが学ぶほどでした。A・Bは時期が早いので、3年生の参加もあり存在は大きく、1・2年生のお手本になりました。
④ R6.11.25(月) 9:30~11:00 ⑤ 松ノ木中学校 特活室 ⑥ 34名 ⑦ 昨今話題の部活動の地域移行、地域連携等、放課後の過ごし方について。今回は委員以外の一般保護者にもお声がけして実施。会終了後、お茶を飲みながらのフリートークも好評を得ました。	

① 大宮中学校区地教連 (佐藤 幸子・日吉 朋子・吉村 昌子)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 澁谷 達雄 (堀ノ内1・2丁目町会会長) ③ 顔の見えるつながりのある地域作り ④ R6.7.10(水) 10:00~11:30 ⑤ 大宮中学校 体育館 ⑥ 26名 ⑦ 杉並区スポーツ振興財団に協力を依頼し「ボッチャ体験会」を開催。歓声や笑い声が起る体験会に続く全体会は、始終和やかな雰囲気、委員同士の距離が自然と縮まりました。	② 関田 誠 (大宮中学校校長) ③ なでしこフェスティバル (ダンス発表会) ④ R7.3.8(土) 14:00~15:30 ⑤ 大宮中学校 体育館 ⑦ ダンス主体の発表会になり4回目。中学生主体のイベントとして定着するよう、生徒会役員が実行委員となり10月から活動を始めました。11月の懇談事業では生徒たちが「今年度の“なでフェス”プラン」を発表。校内でも出演者の募集、開催告知ポスターの作成など、実行委員以外の生徒参加を呼びかけました。当日は、メインとなる2学年体育授業のグループのほか、大宮小、済美小の放課後等居場所事業からの出演チームも加わり、観客も参加できる演出の工夫で、会場一体となって盛り上がりしました。
④ R6.11.21(木) 13:30~15:00 ⑤ 大宮中学校 視聴覚室 ⑥ 31名 ⑦ 懇談会「地域の安全・学校の安全」を開催。消防団分団長でもある大宮1丁目自治会会長と、大宮小学校校長から話を聞き、安全の維持には、互いがよく知り合うことが欠かせないと実感しました。	

① 泉南中学校区地教連 (石坂 督予・渡辺 春香)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 若尾 美暢 (泉南中学校校長) ③ 学校・家庭・地域が協働し青少年の健全育成に繋げる ④ R6.7.2(火) 9:30~11:30 ⑤ 泉南中学校 多目的ホール ⑥ 33名 ⑦ 自己紹介後に グループ懇談形式でこの地域の中で子どもたちにどの様に育ってほしいか?をテーマとしたり、地域活動の取り組みを紹介し合いました。	② 若尾 美暢 (泉南中学校校長) ③ アンネのバラ保護活動 ④ R6.5.15(水) 15:00~17:00、R7.3.12(水) 15:00~17:00 ⑤ 泉南中学校 花壇 ⑥ R6.5.15 開催57名、(R7.3月未開催の為5月のみの人数を記載) ⑦ 地域・学校・生徒・PTA(家庭)で協力しアンネのバラ保護活動に取り組んだ。花壇に植えたハーブのハーブティを飲んだり、花壇の花でブーケも作って参加者は楽しみながら交流ができ、まさにアンネのバラを愛でながら花壇を囲んで楽しめる憩いの場となりました。
④ R7.1.27(月) 14:00~16:00 ⑤ 泉南中学校 校長室 ⑥ 7名 ⑦ 2校の校長、各校PTA会長、青少年委員のみでの懇談会とし、学校生活や PTA活動を経て思う事などに絞って懇談をすることにより、お互い参考になる話が聞ける場になりました。	③ ほうなんばんおどり、ほうなんまつり ④ R6.8.17(土)、R6.10.19(土) ⑤ 方南小学校 ⑥ 98名 ⑦ 昨年から生徒有志の実行委員会で動いていますが、毎年参加している生徒たちが成長をしていて、より充実した活動ができました。また、地域連携が深まり、他の参加団体と共に杉並区のリユースを使用する事もでき、生徒たちだけではなく、周りの大人たちも新しい経験ができました。
	③ キャリア教育~先輩からのメッセージ~ ④ R6.8.21(水) 13:00~15:00 ⑤ 泉南中学校 被服室 ⑥ 40名 ⑦ 泉南中学校卒のプロミュージシャンを講師に迎え、これまでの軌跡を話して頂きました。生徒たちは、進路を考える上でとても刺激になった様子でした。生徒からの要望で急遽セッションも引き受けて頂き、とても良い会となりました。近い世代で活躍をしている方の話をキラキラした目で聞いている生徒たちは印象的でした。

① 和田中学校区地教連 (小森 梨沙・横田 智子)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 岩船 守男(和田青少年育成委員会会長) ③ 子どもたちと共につくる 学校・家庭・地域のネットワーク ④ R6.6.4(木) 15:30~17:00 ⑤ 和田中学校 視聴覚室 ⑥ 31名 ⑦ 懇談会をどのような場にしていきたいか、意見交換を行いました。中学生が発案したものに対して、大人に寄り添ってもらえたという場になりたい等の意見がありました。	② 村山 忠久(和田中学校校長) ③ 小学生部活動体験 ④ R6.10.5(土) 13:40~16:10 ⑤ 和田中学校 体育館、グラウンド、教室、畑など、和田小学校 体育館 ⑥ 170名 ⑦ 部活動体験と校内見学ツアーを実施。会議の進行、校内アナウンス、校内見学のガイドや閉会式の進行など、事業全体にわたり中学生実行委員が運営しました。
④ R6.12.18(水) 14:00~16:00 ⑤ 和田中学校 視聴覚室 ⑥ 50名 ⑦ 合同会社Active Learners共同代表、米元洋次氏に進行をお願いし、昨年度に続く『和田中学校区の地域を考える』をテーマに、学校区内の①通学路の怖さ②ごみ問題③地域活性化についてグループでの意見交換を行いました。	③ ボランティア活動 ④ R6.7.24(水)、R6.7.27(土)、R6.8.3(土)、R7.2.11(火・祝) ⑤ 和田中学校、和田小学校、済美小学校、立正佼成会育成館等 ⑥ 30名 ⑦ 各町会主催の夏祭り、済美小学校支援本部主催イベントや和田一丁目町会餅つき大会のお手伝いなどを行いました。
④ R7.3 発行 ⑦ 広報紙 2,000部	

① 西宮中学校区地教連 (齋藤 千帆・丸山 麻由)

懇談事業	子ども地域活動促進事業
② 西村 文孝(杉並区議会元副議長) ③ あいさつと笑顔でつながる子どもと地域 ④ R6.6.4(火) 10:00~11:30 ⑤ 西宮中学校 多目的室 ⑥ 30名 ⑦ 地域教育連絡協議会の概要説明と規約の確認、構成メンバー・役職紹介、自己紹介、年間計画と内容(案)、情報交換等	② 廣田 香乃子(西宮中学校PTA会長) ③ 西宮冒険記(アドベンチャー) ④ R6.11.30(土) 13:30~14:45 ⑤ 西宮中学校 ⑥ 390名 ⑦ 昨年同様小学5、6年生対象に部活動体験、さらに今年度から小学3年生以上を対象に学校見学ツアーも実施しました。見学ツアーの後は楽しみタイムとして中学生が準備したミニゲームに参加してもらいました。小学生は中学生の活動に興味津々、対して小学生に優しく接する中学生の様子を垣間見ることができ貴重な時間となりました。また、今年度新たな試みで中学生ボランティアを募集しました。チラシやプラカードの作成、当日のツアーコンダクター等大活躍してくれました。
④ R7.2.12(水) 10:00~11:00 ⑤ 西宮中学校 多目的室 ⑥ 30名 ⑦ 昨今小中学生に増えている起立性調節障害について、同じ病を経験した女性が実体験をもとに映画化した『今日も明日も負け犬』を鑑賞し意見交換をしました。	

① 杉森中学校区地教連

懇談事業	子ども地域活動促進事業
活 動 休 止 中	

① 天沼中学校区地教推 あまめまスマイル委員会 (大橋 ゆかり)

- ② 田中 一恵 (天沼青少年育成委員会副会長)
- ③ 「だれにも やさしいまち 天沼」をテーマに地域内にある組織・活動のネットワークの広がりを活かし地域社会全体で子どもの育成や教育に取り組んでいます。
- ◇全体会
- ④ 第1回 R6.5.30(木)
- ⑥ 39名
- ⑦ 自己紹介、前年度の活動報告、今年度の活動について
- ④ 第2回 まちの懇談会 R7.2.26(水)
- ⑥ 30名
- ⑦ 活動についてディスカッション
- ◇運営委員会
- ④ R6.4.25(木)、R6.12.4(水)、R7.2.19(水)
- ⑥ 17名、16名、19名
- ◇事務局会議 原則毎月第2水曜日 天沼児童館

～今年度の事業～

- 「モデル通学路について」
- ④ R6.4月、7月会合 マップ調査
- ⑦ 天沼小通学路アンケート調査、天沼中マップによる通学路調査
- わかば祭り (杉並区立重症心身障害児通所施設わかば)
- ④ R6.7.20(土)
- ⑤ 旧若杉小学校体育館
- ⑦ 天沼中学生がボランティアとして参加

- 天沼小学校防犯教室
- ④ R6.9.14(土) / R6.10.14(月・祝)
- ⑤ 天沼小学校 アリーナ
- ⑥ 児童49名 大人49名 / 児童59名 大人65名
- ⑦ 講師：株式会社ステップ総合研究所
- 低学年向け体験型安全教室、高学年向けSNS安全教室
- たのしきバクハツ！天沼まつり (上荻・天沼児童館)
- ④ R6.10.14(月・祝)
- ⑤ 天沼小学校 アリーナ
- ⑦ 地教推は通学路マップブースにて地域交流
- 杉並こども英語村 (KIVこども国際村)
- ④ R7.1.11(土)
- ⑤ 天沼中学校 体育館
- ⑥ 児童41名、中学生8名、大人約20名
- ⑦ 8か国の外国人インストラクター、杉並英語村のサポーターの方々と沓掛・天沼小1、2年生がゲームやダンスなどを英語で楽しむ国際交流企画
- 子育て講演会
- スマホと子育て「スマホとどう付き合いますか」
- ④ R7.2.13(木)
- ⑤ 天沼児童館
- ⑥ 20名
- ⑦ 講師：山川恵子氏
- スマイルニュース
- R7.3月発行 4,000部
- その他
- スマイルバッジ、スマイルポスター、エコキャップ活動

① 高円寺地区地教推 高円寺うきうきプロジェクト (杉本 昌代・鳥切 智予美)

- ② 高田 芳作 (高円寺学園学校運営協議会会長)
- ③ 高円寺を一つの場として捉え、次世代の育成はじめ、高円寺という街を皆で作り上げていくため地域と家庭と学校が一体となったネットワークの構築とその活動の推進。

懇談会事業

- 高円寺会議～第4ラウンド～
- ④ R7.3.10(月) 16:00～18:00
- ⑤ セシオン杉並 第8・9・10会議室
- ⑦ 「杉並区子どもの居場所づくり基本方針の策定に伴う高円寺地域の取組みについて」

次世代育成事業

- はぴはぴフェスティバル
- ④ R6.7.20(土) 13:10～15:30
- ⑤ 高円寺学園 大アリーナ、多目的・ランチルーム
- ⑥ 730名
- ⑦ 「高円寺地域のおまつりを中学生でつくり、高円寺のまちを盛り上げていこう」を合言葉に高円寺学園中学部生徒有志で結成された子ども実行委員会を中心に、ゲームやステージ発表を企画。それぞれがやりたい事、やってみたい事を話し合い意見交換しながら地域の方のお力もお借りして活動を進めています。今年は更に飲食コーナーの数も増え、参加者もスタッフも一緒になって楽しむことができました。

- 高円寺ゆめ音楽祭
- ④ R6.12.21(土) 13:00～15:20
- ⑤ セシオン杉並 ホール
- ⑥ 715名
- ⑦ 参加団体：杉三小音楽教室、杉十小音楽教室、高円寺学園筆クラブ・天鼓隊・小学部音楽教室・中学部吹奏楽部、高南中吹奏楽部
- 高円寺地域の音楽祭として今年度で12回目の開催。合唱・吹奏楽・和楽器をそれぞれ発表し、お互いの演奏を聞き合う事で音楽の素晴らしさを感じ楽しんでいます。最後の全員合唱の「翼をください」では会場が一つになり、とても感動的です。

その他

- 高円寺地域イベントカレンダー
- ④ R6.9、R7.3 発行
- ⑦ 発行部数 5,000部
- 子どもたちに関わるイベント情報をMAP入りで作成しています。
- 広報誌「うきうき通信」
- R7.3月発行 5,000部

① 杉並和泉学園校区地教推 あすをりなすの会 (橋本 梨江)

- ② 吉橋 正美 (元青少年委員協議会会長)
 ③ 地域ネットワークの発展、多様な世代交流を通し、ふるさと和泉を実感し誇りに思える地域づくり
 ◇運営委員会
 ④ R6.6.11(水) ⑥ 19名

～今年度の事業～

- ふるさと和泉みんなの夏祭り
 ④ R6.8.5(土) 16:00～20:00 ⑤ 杉並和泉学園 校庭
 ⑥ 来場者数：2,950名 参加団体数：50団体
 ⑦ 盆踊り、出店、ステージ、花火などで盛大に開催、地域の団体をつなぎ、多世代を紡ぐ機会となり、「ふるさと和泉」を具現化するようなイベントとなりました。
 ●さざんかフェスタ2024
 ④ R6.9.7(土) 14:00～16:00
 ⑤ 杉並和泉学園 ⑥ 531名
 ⑦ 食べ物屋さんを中心に、子どもたちが各ブースを運営。小学部 6年まで応募枠を上げ、中学生と一緒に活動することで、お互いに学び合い自主的な活動に繋がりました。
 ●ポリス街角パトロール (通称：PMP) 意見交換会
 ④ R6.11.13(水) / R7.3.4(火) いずれも 10:00～12:00
 ⑤ 杉並和泉学園会議室 ⑥ 23名 / 31名
 ●家庭教育講座
 『家族のトリセツ ～自己肯定感を高める対話術』
 ④ R6.9.26(木) 16:30～18:00
 ⑤ 杉並和泉学園・大アリーナ ⑥ 91名
 ⑦ 子どもたちとどう向き合うかのヒントとして脳科学の観点からの講座を催し、地域の大人がともに理解する場を設けました。

- 和泉おはなしの会 読み聞かせ
 ④ 通年 毎週火曜日 (1学期9回、2学期12回、3学期9回)
 ●第7回 いずみ図書フェス
 ④ R6.11.16(土) 10:00～12:00
 ⑤ 杉並和泉学園 図書館 ⑥ 190名
 ⑦ 工作、クイズ、絵本紹介、「素語り」のほか、小中学生に人気の作家・工藤純子さんの特別展示
 ●和泉地区乳幼児関連施設連絡会
 ⑤ レストナック和泉館
 (第1回) ④ R6.7.24(水) 10:30～11:30 ⑥ 20名
 ⑦ 11の乳幼児関連施設が集まり、お互いの施設の紹介、近況報告、懇談を行いました。
 (第2回) ④ R6.11.20(水) 13:30～15:30 ⑥ 17名
 ⑦ 講座「防災施設について考える」
 ●和泉を繋ぐボランティア団体 "ROPE(ロープ)"
 ④ R6.4～R7.3(計12回) ⑤ 旧新泉小学校 防災会議室
 ⑦ 大学生のメンバーによる小中学生対象の学習支援
 ●広報誌【あすをり】No.5
 ④ R7.3 発行 2,000部
 ●和泉親児の会グリーンキャンプ(協力)
 ④ R6.9.23(土) 13:00～、R6.9.24(日) 8:00解散
 ⑤ 杉並和泉学園 校庭 ⑥ 115名
 ●和泉節分祭(協力)
 ④ R7.2.2(日) 13:00～15:00
 ⑤ 杉並和泉学園 小アリーナ ⑥ 527名
 ●大学体験学習(協力)
 ④ R6.7.16(火) ⑤ 明治大学 和泉校舎 ⑥ 和泉中9年
 ⑦ 大学生からの話や質疑応答、校内見学など。大学側との繋ぎを担いました。

① 神明中学校区地教推 みんなあつまれ神明の杜 (栗原 由香理・三浦 聡子)

- ② 長張 健二 (神明中学校同窓会会長)
 ③ 神明中学校区に関わる地域のさまざまな環境にある子どもたちの笑顔と主体性を守り、健全育成への支援を通して、大人も子どもも豊かで活力のあるまちづくりを目指す活動を行いました。
 ◇懇談会事業
 ④ R6.6.6(水) 10:00～12:00
 ⑤ 神明中学校 視聴覚室
 ⑥ 38名
 ⑦ 昨年度会計監査報告と今年度の事業予定・予算案。各小学校の校長先生より、生徒の様子や今年度の予定についてのお話。参加者全員から簡単な自己紹介。
 ◇運営委員会
 ④ 概ね月一回開催
 ⑤ 神明中学校内

～今年度の事業～

- 中学生地域交流事業
 ・神明祭2024
 ② 清水 美穂 (神明中学校支援本部 本部長)
 ④ R6.7.20(土) 11:00～16:00
 ⑤ 神明中学校 校舎・体育館
 ⑥ 2,100名 (出演者・スタッフを含む)
 ⑦ 校舎改築のため、解体前最後の開催となりました。中学生や地域協力のお店は好評で、早い時間に売り切れとなる店もありました。体育館ステージでの合奏や合唱も盛り上がり、盛大に幕を閉じました。

- 地域の教育力を高めるプロジェクト
 ・上映会
 ④ R6.11.16(土) 午前と午後2回上映
 ⑤ 神明中仮校舎 多目的室
 ⑥ 23名
 ⑦ 「桜色の風が咲く」世界で初めて盲ろう者の大学教授となった福島智氏の生い立ちを描いたノンフィクション映画を上映。
 ●多世代・異文化交流プロジェクト
 ・感謝祭イベント第3弾
 『校舎にペイントデー＆なぞ解き学校探検』
 ④ R6.9.7(土) 10:00～16:00
 ⑤ 神明中学校 校舎内
 ⑥ 350名
 ⑦ 校舎に入れる最後の日、地域と共に築いた学校に感謝の気持ちを込めて、校内の壁に絵やメッセージを書くイベントを開催。なぞ解き学校探検や書道パフォーマンス、女子美術大学作品展示、コマ撮りアニメーション上映会などの催しが行われ、卒業生や家族連れなど多くの方が来場し、校舎との別れを惜しましました。
 ●地域づくりプロジェクト
 ・放課後広場
 ④ 毎週金曜日 16:00～18:00
 ⑤ 神明中学校 PTA室
 ⑥ 延べ25名
 ⑦ 中学生が先生以外の大人に相談したいことを気軽にできるよう開放。10月には地域のお祭りの景品作りのお手伝いをしました。

【活動風景】

地域教育連絡協議会(子ども地域活動促進事業)

第1ブロック

井草中学校区(部活動体験)



中瀬中学校区(中瀬フェスタ2024)



第2ブロック

富士見丘中学校区(ふじぶん)



高井戸中学校区(高中ミニコンサート)



第3ブロック

阿佐ヶ谷中学校区(ようこそ先輩)



高南中学校区(高南祭)



【活動風景】

地域教育連絡協議会(懇談事業等)

第1ブロック

荻窪中学校区

(地域の連携、何ができる？何がしたい？初めの一步)



第2ブロック

向陽中学校区

(講話：知らぬ間に巻き込まれていくSNSトラブル)



第3ブロック

和田中学校区

(和田中学校区の地域を考える)



地域教育推進協議会

神明中学校区(神明祭2024)



天沼中学校区(杉並子ども英語村)



杉並和泉学園校区(第7回いずみ図書フェス)



高円寺地区(第12回ゆめ音楽祭)





【絆を深める地域活動】

新たな一步を踏み出して：地域と共に育む未来

井草中学校区地教連は、コロナ禍で活動が一時停止し、昨年度、事実上ゼロからのスタートを切りました。校長先生や会長からは、「決まりやしがいがない分、柔軟に活動できるので、これをチャンスと捉えよう」と励まされ、青少年委員2人で力を合わせて活動を進めています。

昨年度は学校紹介ビデオの作成、今年度は地域の小学生を招いて部活動体験会を開催しました。実行委員の子どもたちは、自由な発想で素晴らしいアイデアを出し、積極的に活動していますが、時には足りない部分もあります。その際、声をかけるタイミングが難しいのですが、彼らの自主性を尊重し、焦らず見守ることが大切だと感じています。子どもたちのアイデアの閃き方や考え方は、大人とは異なり、最終的には自分たちの力でしっかりと成果を生み出すことに、毎回驚かされます。

また、声かけのタイミングで特に参考になるのが井

草中の先生方です。先生方は非常に協力的で、実行委員会にも顔を出してくださり、その際の絶妙なタイミングでの声かけに、いつも感心しています。まさにプロのアプローチであり、その姿勢を学び、私自身も実行委員会での支援に活かしています。

今年度の部活動体験会には地域の皆様も来校してくださり、生徒たちに声をかけたり、感想を寄せていただいたりしました。地域の皆様の温かい反応は、子どもたちにとって大きな励みとなり、自信を深め、自己肯定感を高める大切な支えとなっています。

地域の皆様には子どもたちの頑張りを見守り、その成果を認めていただき、また、子どもたちには地域の方々と触れ合うことで自分の成長を実感してもらうことが、地域の絆を深め、地域活性化につながると信じています。
(新 理恵子)

地域活動を通して子どもたちの成長を見守る

初めは、お手伝いという形で地教推へ参加させて頂いていました。なので、あまり深く関わっておらず、青少年委員の皆さんがどのような活動をしているのかよくわかりませんでした。今年度初めて青少年委員を引き受けさせて頂きましたが、とにかく青少年委員って何??というところから始め、1年が過ぎようとしています…。研修へ参加し、先輩方の姿を見て、みなさんとても前向きで素晴らしい方々と巡り合わせて頂き感謝しています。その先輩方の姿を見てとにかく前向きに考えよう、私に何が出来るんだろうと自問自答する日々ではありますが、我が子たちが地域の皆さまに育てていただいて、少しでも何かお手伝いができればと思い、微力ながら邁進している日々です。コロナ禍で様々なイベントが中止

になり、また各事業が再スタートし、各団体様が地域の為に変えて努力されている姿にもとても有り難い事と感じています。このような地教推の様々な事業を通して、子どもたちのより良い成長に家庭・地域・学校の相互理解と協力がどれほど大切なものかを実感しています。昨年度より、復活した子促事業である「さざんかフェスタ」も今年度は単独開催とし、子どもたちやその保護者の皆さまがとても大変ながらも楽しそうに活動している姿を拝見させて頂いて、とても意義ある活動と思いました。自主的に活動し、相手を思いやり行動する姿は、確実に子どもたちが成長する良い機会だと思います。これからも地域貢献に微力ながらお手伝いさせて頂きたいと思います。ありがとうございました。
(橋本 梨江)

地域活動は子どもたちのため？

泉南中の子促では、生徒がイベントへの参加をしつつボランティア活動を行っていますが、その際、地域の方々と一緒に活動したり、生徒たちの姿を見たり、噂を聞いてくださったりしているので、生徒に対して地域からのイベント協力依頼がここ数年でかなり増えました。一方で携わる人間が多くなればなる程、やはり様々な考え方がある中で間を取り持つ役割の自分が、自分の軸はある程度持ちつつ調整をしておりますが、時々…色々思い悩む。相談しながらアップデートもしてきたつもりではありますが、やはり時々悩む。ですが…月日が経ち、一緒にワイワイ楽しく活動してきた子どもたちが成長を遂げ、様々な場所で活躍をし、私が協力を仰いだ時は快くボランティアに駆けつけて

くれたり、道端や仕事先で「こんにちは！元気ですか？僕～私～ですよー、わかりますか？」と声をかけて近況を話してくれる事も増え、その度に…とりあえず嬉しい！し、私のしてきた事は概ね〇だったのな、と思えたり、子どもたちや地域の方々との絆がどんどん増えていっている実感もでき、悩みながらも結局は自分の心の栄養・活力になっている→結果プラス！と思えるから、こういった活動をやり続けている気がします。また、様々な子どもたちの成長の中で楽しかった思い出の一部になれている自分は「幸せだなあ」と思います。これからも、周りの皆さんと自分の幸せのためにも、皆んなでワイワイ楽しく活動していきたいと思えます♪
(石坂 督予)



人とのつながりが継続の力になる

青少年委員を引き受けるかどうか悩んでいたとき、背中を押してくれたのは、それまでの数年間に「子どもたちの居場所を守りたい」という地域活動を通してたくさんの方の知り合いができていたことでした。今までの交友関係にはいなかった人たちとの出会いで、地域の日常やちょっとした歴史を知る機会が増えたことはとても興味深いものでした。一方で「地域活動はボランティアとして求められることが多い」と感じることも増えてきました。

私はわりと時間に融通がきく仕事をしているため、なんとか活動に関わっていますが、業務や家事の時間を割いている分、正直負担に感じることも。しかし、もし今ここで活動をやめてしまったら「あのときもう少し

頑張っていたら…」と将来後悔するのではないかと、とも思うのです。

そんなとき、周りに協力してくれる人がいることが本当に心強く感じられました。課題や懸念を共有できるだけでも意外と乗り越えられることがありますし、上の世代の方々の経験を聞くと、自分たちでは思いつかなかったようなアイデアに気づくこともあります。

今と同じか少しだけ良い方向へ進むくらいの心持ちで、できる範囲で無理なく関わり続けることが大切だと感じます。さまざまな世代や役割の方々と関わり、負担を分け合いながら、ゆるやかに続けられる方法で自分なりに、地域の絆をつないでいけたらと思っています。(河野 知恵子)

顔を合わす大切さと子どもたちとの嬉しい距離の変化

青少年委員として3年が経ちました。私の担当校区は、コロナ禍や時代の影響で数年前から定例の子促事業がなくなり、私が入った時には「地域活動」への意識が非常に薄い状態でした。子どもたちを支援したいという思いとは裏腹に、そのお手伝いの難しさに悩み、試行錯誤の日々でした。そんな中、先輩の青少年委員から「自分の顔を売る」ことの重要性を教わり、これが新たな解決策のヒントとなりました。

令和6年度が始まり、校長先生のご協力を得て、朝礼で子どもたちに青少年委員の活動をプレゼンしました。また、学校との連絡もできるだけ直接対面で行うことを心がけたところ、今年度の「地域活動」は、学校の協力や子どもたちの関心が高まり、3年間の中で一番活気に満ちたものになりました。

子促事業では、異なる学年の子どもたちが同じ目標

に向かって準備を進め、関係が深まる様子を見ることができ、とても感動しました。廊下を通る先生方も時折参加し、皆が楽しそうに取り組んでいる姿は印象的でした。そして、子どもたちとの交流も増え、学校内で声をかけてくれる子が多くなったことが嬉しい変化でした。

また今年度は、地域活動は多くの方々の協力によって成り立っていることを再認識することができました。学校や保護者、地域団体、学校支援課や仲間の青少年委員の支援に心から感謝しています。地域活動の活性化は、興味のある人だけでなく、興味がない人も巻き込むことが大切だと、この一年で強く感じました。今後も「やってみよう」と思う子どもたちを増やし、「人と人をつなげる」活動を続けていきたいと考えています。(神戸 朱里)

「チームまつのき!!」の絆

青少年委員となった令和4年4月、担当小学校より「今年度以降は、例年、合奏と合唱を披露していた5年生のふれあいコンサート(子ども地域活動促進事業)への参加は難しい」とのお話がありました。実行委員生徒で話し合い、「高学年児童に向けて舞台発表を呼びかけるチラシ」を配布したところ、その思いに応えてくださったのであろう先生方が全員で「合奏」を披露し、令和5年も校長先生自らが歌い、先生方がバックバンドとして演奏し会場を盛り上げてくださったことで、何とか3校が関わる形で行うことができました。

令和5年コンサート開催の2日後、「今後の子促の在り方・地域との関わりに望むこと」をテーマに実行委員生徒も交え懇談事業を行いました。実行委員生徒

の達成感や率直な思いに地教連委員が耳を傾け、松ノ木地域の大人も子どもも共に考える場となりました。そこで「地域のお祭りに参加してみては?」との声が上がり、令和6年7月「松ノ木地域納涼大会」、10月「堀小こどもフェスティバル」の参加へとつながりました。未就学児も含めた多くの子どもたちが一緒に楽しく過ごすことができ、実行委員生徒の活躍の場も広がりました。

これまで「チームまつのき!!」の多くの皆様が子どもたちをあたたく見守り支えてくださったことにあらためて感謝しますとともに、その絆を大切にしながら、これからも皆様と楽しく活動に取り組んでいきたいと思っています。(小林 麻里)

青少年委員協議会 令和6年度 年間活動状況

月	日	曜日	事業活動・派遣関係
4	11 17	木 水	社会を明るくする運動推進委員会 第1回実務部会 すぎなみ舞祭 第1回実行委員会
5	16 18 29 29 29 29 30	木 土 水 水 水 水 木	すぎなみ舞祭 第1回企画・広報部会 中・高生委員会事務局協力員委嘱式(子ども・子育てプラザ善福寺) 中・高生委員会事務局協力員委嘱式(四宮森児童館) 中・高生委員会事務局協力員委嘱式(高井戸児童館) 社会を明るくする運動推進委員会 第2回実務部会 ふれあい運動会 第1回実行委員会 すぎなみ舞祭 第1回設営・出店部会
6	1 4 17 26 27	土 火 月 水 木	中・高生委員会事務局協力員委嘱式(堀ノ内東児童館) すぎなみ舞祭 第2回企画・広報部会 すぎなみ舞祭 第3回企画・広報部会 すぎなみ舞祭 第2回設営・出店部会 社会を明るくする運動推進委員会 第3回実務部会
7	4 8 10 11 15 18	木 月 水 木 月・祝 木	すぎなみ舞祭 第2回役員会 青少年問題協議会(第1回) ひまわりフェスタ 従事者説明会 中学校対抗駅伝大会 第1回実行委員会 ひまわりフェスタ ふれあい運動会 第2回実行委員会
8	29	木	すぎなみ舞祭 第4回企画・広報部会
9	4 11 13 18	水 水 金 水	すぎなみ舞祭 第3回設営・出店部会 社会を明るくする運動推進委員会 第4回実務部会 ふれあい運動会 第3回実行委員会 中学校対抗駅伝 第2回実行委員会
10	3 3 8 11 11 12 19 20 24 27	木 木 火 金 金 土 土 日 木 日	駅頭広報活動(西荻窪駅・荻窪駅) ふれあい運動会 従事者説明会 駅頭広報活動(高円寺駅・永福町駅) 駅頭広報活動(阿佐ヶ谷駅・東高円寺駅) すぎなみ舞祭 第2回実行委員会・従事者説明会 ふれあい運動会 堀ノ内東児童館地域中・高校生委員会(ほりとんまつり) すぎなみ舞祭 青少年問題協議会(第2回) 高井戸児童館中・高校生委員会(高井戸久我山子ども秋まつり)
11	5 12 12 20	火 火 火 水	セシオン杉並 団体交流室委員会(第3回) 社会を明るくする運動推進委員会 第5回実務部会 ふれあい運動会 第4回実行委員会 中学校対抗駅伝大会 第3回実行委員会
12	8 9 10	日 月 火	中学校対抗駅伝大会 社会を明るくする運動推進委員会(第2回) すぎなみ舞祭 第3回実行委員会
1	13	月・祝	二十歳のつどい
2	1 7 7 23 26	土 金 金 日 水	地域中・高校生委員会活動報告会 社会を明るくする運動推進委員会 第6回実務部会 ファミリー駅伝 従事者説明会 ファミリー駅伝 中学校対抗駅伝大会 第4回実行委員会
3	6 6 11 24	木 木 火 月	すぎなみ舞祭 令和6年度第1回役員会・監査 ふれあい運動会 監査 社会を明るくする運動推進委員会 第7回実務部会 健康スポーツライフ杉並プラン推進懇談会

*はオンライン開催

月	日	曜日	定例会・全体会・役員会等	日	曜日	専門部会	日	曜日	ブロック会
4	4 18 25	木 木 木	委嘱式・定例会・全体会 三役会 拡大役員会						
5	16 23 30	木 木 木	基礎研修・全体会 三役会 役員会	16 16 16	木 木 木	研修部会 広報部会 地域交流部会			
6	20 27	木 木	定例会・全体会(ブロック別) 三役会	3	月	研修部(実技研修講師打合せ*)			
7	4 18	木 木	役員会 実技研修・全体会	18 18 18	木 木 木	研修部会 広報部会(だより配布作業) 地域交流部会			
8	29	木	三役会						
9	5 19 26	木 木 木	拡大役員会 委員研修・全体会 三役会	19 19 19	木 木 木	研修部会(自主研修検討) 広報部会 地域交流部会			
10	3 17 31	木 木 木	役員会 他団体との交流会 三役会				10	木	2ブロック研修会 (エビスビールミュージアム見学)
11	7 21 29	木 木 金	役員会 定例会・全体会(ブロック別) 三役会	8 21 21	金 木 木	広報部(だより83号座談会) 研修部会 広報部会	29	金	3ブロック研修会 (おもちゃ美術館見学)
12	5 26	木 木	拡大役員会 三役会	27	金	広報部(だより打ち合わせ)			
1	9 16 30	木 木 木	拡大役員会 自主研修 (日本銀行&貨幣博物館見学) 三役会	9 9 9	木 木 木	研修部(ミニ部会) 広報部 (実践集録・だより打ち合わせ)			
2	6 20 27	木 木 木	役員会 定例会・全体会 三役会	6 20	木 木	広報部 (実践集録・だより打ち合わせ) 広報部会	20	木	1ブロック研修会(ゆう杉並見学)
3	6 21 27	木 金 木	役員会 定例会・全体会・活動報告会 三役会	21 21	金 金	広報部会 (実践集録・だより配布作業) 研修部会			

杉並区青少年委員協議会 規約

第1章 名 称

第1条 本会は、杉並区青少年委員協議会と称し、連絡場所を杉並区教育委員会事務局学校支援課に置く。所在地は、杉並区阿佐谷南一丁目15番1号とする。

第2章 会 員

第2条 本会は、杉並区青少年委員（以下「委員」という）をもって構成する。

第3章 目 的

第3条 本会は、杉並区青少年委員に関する規則第2条の規定による職務の円滑な遂行のための調整、相談、共同活動等を組織的、計画的に進めるとともに、青少年関係諸団体相互の連絡調整を図る。さらに、委員の資質の向上を図るための研修を深め、地域活動における青少年の参画を図り、青少年健全育成を推進することを目的とする。

第4章 役員及び会計監査

第4条 本会に、次の役員及び会計監査を置く。

- ① 会 長 1名
- ② 副 会 長 2名
- ③ 会 計 2名
- ④ 書 記 2名
- ⑤ ブロック長 3名
- ⑥ 専門部長 3名
- ⑦ 会計監査 2名

第5条 役員及び会計監査は、次の職務を行う。

- ① 会 長 会を代表し会務を総括する。
- ② 副 会 長 会長を補佐し、会長に事故ある時はその職務を代行する。
- ③ 会 計 本会の会計事務を行い、監査を経て全体会に決算報告をする。
- ④ 書 記 本会の議事及び活動に関する事項を記録する。
- ⑤ ブロック長 ブロック会を招集し、その連絡調整にあたる。
- ⑥ 専門部長 担当する専門部を取りまとめる。
- ⑦ 会計監査 本会の会計を監査し、全体会に報告する。

第6条 役員及び会計監査は、選挙規定に従い選出し、全体会で承認を得る。

第7条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。なお、補欠により就任した役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第5章 活 動

第8条 本会は、第3条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- ① 青少年関係諸団体・学校及び官公署等との情報交換、連絡調整に関すること。
- ② 委員の資質向上のための自主研修に関すること。
- ③ 委員相互の連絡協調、調整、相談を密にし、個人活動の充実を図るための支援に関すること。
- ④ 青少年教育に関する調査研究及び広報活動に関すること。
- ⑤ 他地区青少年委員協議会及び青少年関係諸団体との協力関係を深めるための情報交換、交流事業に関すること。
- ⑥ 前各号のほか、青少年健全育成及び青少年の参画支援に関すること。

第6章 専門部及び特別委員会

第9条 本会に次の専門部を置く。

- ① 研 修 部 各種研修を計画、立案し運営にあたる。
- ② 広 報 部 青少年委員だより及び実践集録の発刊等、広報活動にあたる。
- ③ 地域交流部 青少年教育関係各機関・団体との情報交換、交流を計画立案し、運営にあたる。

第10条 必要に応じて、特別委員会を置くことができる。

第7章 会 議

第11条 本会の会議は、次のとおりとする。

- ① 全 体 会
- ② ブロック会
- ③ 役 員 会
- ④ 専門部会
- ⑤ 特別委員会

第12条 全体会は、本会の最高議決機関であり、全会員によって構成され会長が招集する。なお、原則として年6回以上開催し、次の事項を審議する。

- ① 事業計画ならびに予算
- ② 事業報告ならびに決算報告
- ③ 役員及び会計監査の承認
- ④ その他必要事項

第13条 ブロック会は、原則として年6回以上開催し、自主的に運営して次の事項を協議する。なお、ブロック編成は、地域割りにて3つのブロックとする。(旧社会教育会館単位) 各ブロックは、必要に応じて副ブロック長を置くことができる。

- ① 個人活動及び諸団体との情報交換
- ② 役員会・専門部会との連絡調整
- ③ 会員相互の親睦
- ④ その他必要事項

第14条 役員会は、会長・副会長・会計・書記・ブロック長・専門部長をもって構成し、会長が招集する。ただし、代理出席することができる。なお、役員会は原則として毎月開催し、次の事項を審議する。

- ① 当該年度の予算の執行ならびに決算書の作成
- ② 事業計画及びブロック会・専門部会との連絡調整
- ③ その他運営上必要と認めた事項

第15条 専門部会は専門部員をもって構成し、部長が必要に応じて招集する。各専門部は、必要に応じて副専門部長を置くことができる。

第16条 会議は、出席者の過半数で議決し、賛否同数の場合は招集者がこれを決定する。

第17条 学校支援課の関係職員は、各会議に出席し参考意見を述べるができる。

第8章 会 計

第18条 本会の運営に必要な経費は、会費その他の収入をもってこれに充てる。なお、会計はその年度ごとに定める。

第19条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第9章 規約の改廃及び細則

第20条 この規約は、全体会において出席者の過半数の賛成をもって改廃することができる。

第21条 本会の運営上必要な細則は、全体会の承認を経て別に定めることができる。

付 則

この規約は昭和57年4月1日より施行する。

この規約は昭和58年3月18日より施行する。

この規約は昭和59年4月1日より施行する。

この規約は昭和61年4月1日より施行する。

この規約は平成5年4月1日より施行する。

この規約は平成6年4月1日より施行する。

この規約は平成10年4月1日より施行する。

この規約は平成12年4月1日より施行する。

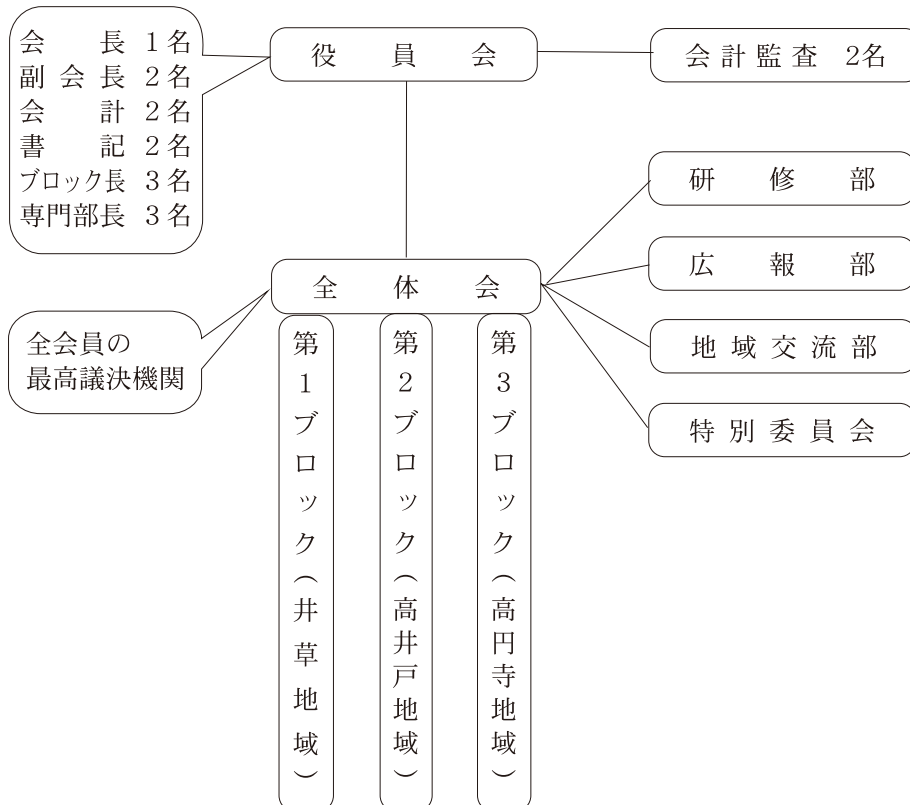
この規約は平成14年4月1日より施行する。

この規約は平成16年4月1日より施行する。

この規約は平成18年4月1日より施行する。

この規約は平成24年4月1日より施行する。

杉並区青少年委員協議会 組織図



令和6年度 杉並区青少年委員協議会 ブロック別委員名簿

	氏 名	役 職	専 門	担 当 中 学 校	担 当 小 学 校	推 薦 育 成 委 員 会
第一ブロック	会田 洋子	副部長	広 報	荻 窪	井 荻	上 井 草
	芦 秋子	会計監査	広 報	井 荻	桃 井 第 一	清 査 中 通
	新 理恵子	副部長	研 修	井 草	桃 井 第 四	上 井 草
	大橋ゆかり		研 修	天 沼 中	天 沼 小	天 沼
	大盛 悦子	ブロック長	地 域 交 流	井 荻	四 宮	下 井 草
	栗原由香理	会計	地 域 交 流	神 明	高 井 戸 第 四	宮 前
	河野知恵子		地 域 交 流	東 原	杉 並 第 九	天 沼
	小林 朱実	会計監査	広 報	井 草	三 谷	上 井 草
	白瀬 理恵	副会長	地 域 交 流	中 瀬	桃 井 第 五	下 井 草
	三浦 聡子		広 報	神 明	桃 井 第 二	荻 窪
	山崎 愛	副ブロック長	研 修	荻 窪	桃 井 第 三	上 荻 窪
第二ブロック	橋本 梨江		研 修	杉並和泉学園	杉並和泉学園	方 南 和 泉
	安部 音羽		広 報	高 井 戸	高 井 戸 東	高 井 戸
	岡田美津江	会長	広 報	富 士 見 丘	富 士 見 丘	高 井 戸
	奥山美奈子	ブロック長	研 修	高 井 戸	浜 田 山	下 高 永 福
	神戸 朱里	副部長	地 域 交 流	東 田	杉 並 第 二	成 田
	齋藤 千帆		地 域 交 流	西 宮	高 井 戸 第 二	宮 前
	丸山 麻由		広 報	西 宮	松 庵	宮 前
	長澤 淳子		地 域 交 流	宮 前	久 我 山	宮 前
	鈴木 春乃	会計	研 修	東 田	東 田	成 田
	毒島さつき	書記	広 報	富 士 見 丘	高 井 戸	高 井 戸
	村木 由紀	副ブロック長	研 修	松 溪	桃 井 第 二	荻 窪
	目黒 由美	書記	地 域 交 流	松 溪	西 田	成 田
	河井 貴子		地 域 交 流	向 陽	高 井 戸 第 三	下 高 永 福
	瀧口 志保		広 報	向 陽	永 福	下 高 永 福
第三ブロック	石坂 督予		地 域 交 流	泉 南	方 南	方 南 和 泉
	小林 麻里	副ブロック長	研 修	松 ノ 木	松 ノ 木	堀 松 梅 宮
	小森 梨沙	部長	広 報	和 田	杉 並 第 十	和 田
	横田 智子		広 報	和 田	和 田	和 田
	椎野 玲子	ブロック長	広 報	阿 佐 ケ 谷	杉 並 第 六	馬 橋
	澁谷 薫	部長	地 域 交 流	松 ノ 木	堀 之 内	堀 松 梅 宮
	杉本 昌代	部長	研 修	高 円 寺 学 園	高 円 寺 学 園	高 円 寺 北
	山崎 友香		地 域 交 流	高 南	杉 並 第 十	和 田
	鳥切智予美		地 域 交 流	高 円 寺 学 園	高 円 寺 学 園	高 円 寺 中 央
	佐藤 幸子		広 報	大 宮	大 宮	堀 松 梅 宮
	日吉 朋子		地 域 交 流	大 宮	済 美	堀 松 梅 宮
	松本 絵美		研 修	高 南	杉 並 第 三	高 円 寺 中 央
	諸橋 記子	副会長	研 修	阿 佐 ケ 谷	杉 並 第 七	阿 佐 谷
	吉村 昌子		研 修	大 宮	済 美 養 護	堀 松 梅 宮
	渡邊 春香		広 報	泉 南	方 南	方 南 和 泉

(令和7年3月現在)

令和6年度
青少年委員実践集録

登録印刷物番号

06-0113

対話からの 気づき をおくりあおう

令和7年3月発行

編 集 杉並区青少年委員協議会 広報部

発 行 杉並区教育委員会事務局 学校支援課
家庭・地域教育担当

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

電話 03(3312) 2111(代)

☆杉並区のホームページでご覧になれます。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp>